

〔四節八座抄〕雨儀

二著外辨事上官床子

出敷政門經綾綺殿南壇上上官在座者揖於同殿巽角擁笏笠出宣陽門自壇下南行擁笠自内記局

南程昇砌上略

〔古今著聞集博十二〕後鳥羽院御時伊與國おふてらの島といふ所に天竺の冠者といふもの有けり

略○中の冠者あかとりぞめの水干になつ毛のむかばきをはきてまげどうの弓にのやおひて

竹笠をきたりけり

〔曾我物語一〕かはづの三郎うたれし事

いとうがちやくしかはづの三郎ぞきたりける略○中せんだんとうのゆみのまん中とりもえぎ

うらつけたる竹がさがらしにぶきそらせ略○下

〔安齋隨筆前編五〕一竹笠 曾我物語に見へたり竹のあじろ笠なるべし

〔曾我物語八〕すけつねをゐんとせし事

十郎がその日のまやうぞくにはもよぎにはひのうらうちたるたけがさむらちどりのひた

れに略○中 五郎がその日のまやうぞくにはうすくれなるにてうらうつたるひやうもんのたけ

がさまぶかにきて略○中 せこをやぶりてま、こそ三かしらいできたりけれこれはいかにと見

るところにかのすけつねこそおつすがひておとしけれその日のまやうぞく花やかなり略○中

きんしやにてうらうちたるうきもんのたけがさあらしにぶきなびかせ略○下

〔玉函叢説一〕竹笠の事

曾我物語に富士の牧狩の所にはうす紅にうらうちたるひやうもんの竹笠また紗金にてう

らうちたる浮紋の竹笠など見へたるは竹の皮などうすくしてあみたるを中にて裏表をは